

「台湾大学スプリングスクールプログラム参加報告書」

京都大学経済学部2年 林 浩太

① 学習成果

今回の派遣に参加して強く実感したことは、留学における学びを最大化するものは、現地での学びではなく、現地に行くまでの事前準備にほとんどがかかっていることである。今回の派遣においても努力はもちろんしたが、学びを最大化できたかというよくわからないというのが実感である。今後の留学に向けて、現地でよく学びよく遊ぶためにも事前準備を万全にしてから行く必要性に気づくことができた。

また、現地の国立台湾大学の学生との交流において授業に参加させていただいたが、ヨーロッパ圏からの留学生と話す機会があった。彼は中国語を習い始めて2年と自分と変わらない中国語学習歴の長さなのに自分よりはるかに流暢であり、中国語の他にも英語・日本語・ドイツ語・フランス語を操るその姿に自分も今よりさらに熱心に学習に励まなければならないと大変刺激を受けた。

② 海外での経験

台湾の学生の真面目さ＝学問や大学での学習に対する真摯な態度、そしてひまわり運動に代表されるような、政治・経済・社会そして国の行く末への大学生や若者の関心度の(日本とは比べ物にならない)高さを感じ取ったことを経験としてあげたい。日本でも18歳選挙権の実現など昨今にわかに若者の政治参画促進への働きかけが注目されているが、台湾の自主的な取り組み等に学ぶところは多いと感じた。

また、日本で報じられる台湾の「親日」と実際の台湾における親日の差は面白いと感じた。

日本人の台湾に対する熱意に比べると、台湾人の日本への親近感は血が通いつつもあくまで冷静であり、日本においてメディアが伝える状況とはかなり毛色が違うと感じた。

③ プログラム内容

約2週間、発音・スピーキング・リスニングに主眼を置きながら中国語で中国語を学ぶ授業を毎日午前9時～12時まで受講した。また計3回の台湾文化に関する中国語のグループワーク型授業や、同じく計3回の台湾の博物館や芸術に関する英語の授業も実施された。

華語研究所ではなく国際事務處による提供プログラムなので、中国語の授業は期待していたほど専門性は高くなかったが、普段なかなか鍛えることのできない「話す力」を醸成するとても良い機会となった。

特にテキストが台湾における日常生活をモチーフとしていたため、単語帳や日本における大学の授業・自習では身につけるのが難しいような生活上の表現を習得することができた。

④ 進路への影響

実際に台湾でもトップレベルとされる大学生たちと触れ合い、彼ら彼女らのキャリア観を話しあう機会があった。その時に感じたのは、彼ら彼女らと日本の大学生(例えば京大生)とはキャリアを考えるにあたってのベースがかなり異なるというこ

とである。中国や日本、アメリカという世界 3 大国との結びつきが強いというのもあるが、もとよりグローバルな活躍への志向が強かった。経済状況や人口動態、社会的な状況も日本と類似点が多いのに日台の若者でここまで意識が違うのかと自分の不勉強さや視野の狭さに危機感を抱いた。まだ自分の進路は明確には決めてはいないものの、少なくとも中国語や英語は習得したうえで自分の強みを最大限発揮できる仕事をよりグローバルな視点で探していきたい。

在臺灣留學、我經歷很多難得的經驗。

但是因為這裡的篇幅不夠、所以我只說兩個。

第一：我覺得台灣學生的態度是很認真。他們的想法對自己的學習，工作資歷和國家的政治，經濟是很有意思。

第二：我特別喜歡台灣的小吃。台灣的夜市是很有名。你想吃什麼、就在那裡可以吃什麼。夜市是台灣獨特的文化、一定要去。